

## 学友会と大学との新型コロナウイルス対応に関わる懇談状況の公表

(文責：立命館大学学友会中央常任委員会)

学友会は、新型コロナウイルス禍にある状況であっても「学生の学ぶ機会を担保することが重要となる」という問題意識のもと、そうした環境を整備すべく、大学へ懇談の機会を求めました。これを受け、5月7日に学友会と教学部・財務部・学生部懇談会が開催され、大学から以下の説明(5月7日時点)がありました。

また、今後の進捗については随時公表していく予定です。

## 記

- 大学の教育における基本的な責任を果たすため、立命館憲章および人材育成目的を踏まえ各学部において定めている教育目標および授業科目ごとに設定されている到達目標の達成を目指す。
- 実験科目などに関して、実施について検討している。実地実習が許される時期ごとに、状況に応じた方針を検討している。また、実地実習が不可能と判断される場合の検討も今後行っていく。
- 休講判断の大きな理由は、学生に対する授業外での学びのサポート(学びステーションにおける対応など)を十分に行えない、受講環境が整っていない(パソコン・ルーター貸し出しなどの体制がなかった)、と判断したからである。
- 学びの質については中長期的に学友会とも協議をしていく。
- 学生の経済支援のために立命館独自の支援金および奨学金を設けた。
- 一律 3 万円の給付時期に関しては、学外企業とも連携しながら給付のためのシステム設計を急ぎ進めている。工程確保が難しい状況にあり、不確定であるが、給付時期は6月上旬または中旬に給付できるように準備中である。
- 在宅学習やコミュニティ形成を念頭においた支援策を検討しており、緊急支援金に関しては学生部・国際部を中心に検討している。
- キャンパス入構禁止処置は政府の要請を受けてのものであることから、大学から政府に対して支援を求めていく。
- 休講及び入構禁止期間、大学として削減された経費はあるが緊急支援として講じた予算 25 億円を補填できるほどでない。
- 現時点で学費の減額を行う事は、学びの質を担保することを放棄することに繋がりがかねないと考えている。そのため、学費の減額はせず学びの質を維持する方向で検討している。
- 学友会との懇談を踏まえ、大学として学生に向けた文書の作成を検討する。

以上